別紙様式１

教科等研究会（小学校生活科・総合的な学習部会）

令和元年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

豊かな体験に支えられ　学びをつなぎ　学びを深める子どもの育成 ～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
六月三日（月）	二十一名	広安西小学校	八月二日（金）	七滝中央小学校	地域産物を活用した加工体験	十月二十一日（月）	広安小学校	広安小学校　四年担任 上川　哲平　教諭	一月二十三日（木）	嘉島西小学校	嘉島西小学校　一年担任 堀田　大　教諭

３　研究の概要

(1)　研究の内容

平成２５年度に熊本県小学校生活科・総合的な学習の時間研究大会を上益城郡で開催して以来、その研究を教科等研究会で深めてきた。本年度、新たに会員となった先生方とともに、これまでの研究の成果と課題をふまえながら、また、上益城郡教科等研究会全体テーマを受けて、本年度の当部会のテーマを「豊かな体験に支えられ　学びをつなぎ　学びを深める子どもの育成」とし、サブテーマに「児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して」と掲げて、研究を行ってきた。

①　研究主題について

○「豊かな体験」とは

子どもたちの中に感動や葛藤が生じ、知的好奇心を高め、探究的な学習へつなぐことができる体験

○「学びをつなぐ」とは

子どもが「探究的」「横断的・総合的」「協同的」な学習を発展的に繰り返し、気付きの質を高めたり、思考を広げたり深めたりしていくこと

○「学びを深める」とは

自分のよさや成長が分かり、学習したことを自分の生活や生き方に生かし、社会の中での自分を見つめ、主体的に行動していこうとすること

②　研究の視点について

研究の視点１　探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫
研究の視点２　気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実
研究の視点３　子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫

(2)　成果と課題（○成果　●課題）

○生活科、総合的な学習の時間の両方の研究授業を行うことができてよかった。

○どちらの授業も体験の上に成り立っていた。

○どちらの授業も、地域を生かした授業で、熊本地震が関係している内容だった。熊本地震は大きなテーマで、上益城郡ならではの学習内容にもなった。

○夏期研修では、ソーセージ作りの体験研修を通して、地域の方とつながる学習の素晴らしさを実感できた。

●「活動あって学びなし」の授業からの脱却がまだできていない面がある。今後さらに課題意識を持って取り組んでいきたい。

●「体験→表現」の繰り返しをどのように深めていくか、まだ研究が不十分である。今後も、研究授業等を通してさらに深めていきたい。

4　実践事例

(1) 授業の概要

第４学年　総合的な学習の時間　単元「あんぜんな町に」
授業者　上川　哲平　教諭（益城町立広安小学校）

①　研究の視点に沿った授業づくり

【研究の視点１】「探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫」

・実際に自分がいつも歩く通学路を中心にフィールドワークを進めることで知的好奇心を高め、探究的な学習へとつなぐ。

・広安フェスタ（学習発表会）での発表や地域の方への発信を単元のゴールに設定することで意欲の高まりを目指す。

【研究の視点２】「気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実」

・フィールドワークの際に気づいた箇所をカメラや地図を使って記録に残していくことで、事後の交流をしやすくする。

・情報が整理された防災マップを見ることで、益城町の防災に関する取組や発信していきたいところを分析させる。

・フィールドワークや防災マップ作成の際には、民生児童委員をはじめとする地域ボランティアの方に協力を依頼し、気付きを交流することで地域に対する学びを深める。

【研究の視点３】「子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫」

・ワークシートを蓄積しておくことで児童が学びを見通し、振り返ることができるようにする。

・感想交流など自分自身の生活と重ね合わせるようにすることで、児童が学びを生活に生かすことができるようにする。

②　授業研究会

○自評

・学年全体で、自分が住んでいる地区ごとにグルーピングとフィールドワークをしてきた。

・ＧＴの協力も得た。

・防災学習は、不安をなくすために心をリラックスさせながら進めていった。

・子どもたち自身から「伝えたい」という言葉が出てきたのはよかった。次につながると思う。

・作ったマップから何を伝えるのかということが難しかった。子どもたちが自分の経験を出すのも難しかった。

○研究協議

・マップを作る前より後の方が、地域の方とのつながりが強くなったり、防災意識が高まったりするなど、子どもたちに変容が見られた。

・フィールドワークや地図作りのサポーターは、保護者、学校運営協議会、自主防災クラブ、熊本大学の教授・研究室、民生委員、その他の地域の方、役場、教育委員会で、様々な方との関わりの中で学習できたことはよかった。

・「危険なところもあるけれど、いいところもある」と伝えたい子どもの意見がよかった。防災マップ→安心マップという発想の転換もできる。学習したからこそ出た意見である。

○指導助言

・サポーター等の体制が整っていること、単元計画がしっかりと作られていること、心のケアにも日常的に取り組まれているところがよかった。

・子どもたちが「自分たちの学びがここまでつながるのか」という実感を持つためにも、伝えたいという思いを大切にし、特に危険な場所については安心して住めるよう、区長さんや町長さんへお願いするところまで高まればよい。

(2) 学習指導案

① 単元の目標

フィールドワークで通学路を歩き、地域の防災について見つめ直す活動を通して、益城町の防災の現状や防災に取り組む工夫や努力が分かり、調べたことをマップにまとめ校内や町内の人々に発信でき、防災意識を高め進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。

② 単元の評価規準

評価の観点		評価規準
知識及び技能		地域の防災に対する現状や防災に取り組む人々の工夫や努力が分かっている。
		情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
思考力，判断力，表現力等	課題の設定	自分の被災の経験から地域についての課題を設定し、解決方法を考えている。
	情報の収集	目的に応じて、フィールドワークを通して必要な情報を集めている。
	整理・分析	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。
	まとめ・表現	相手に応じてわかりやすく防災マップにまとめ、表現している。
	振り返り	学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。
学びに向かう力，人間性等	主体性	課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組もうとしている。
	協働性	課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組もうとしている。
	自己理解	自分のよさや自分にできることに気付くことができている。
	他者理解	自分と異なる意見や考えがあることに気付き、相手の立場を理解することができている。
	社会参画	自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。

③ 単元の指導計画と評価計画（全５５時間）

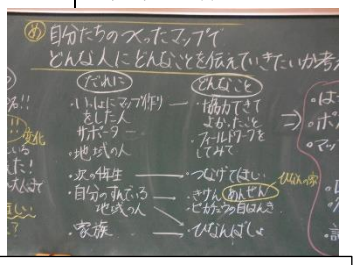
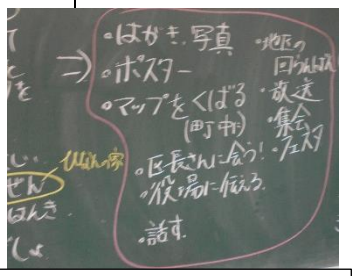
探究的な学習過程	主な学習内容	評価規準及び評価方法	
① 課題の設定 （１６時）	○オリエンテーション ○防災とは何か考える。 ○益城町の災害について自分の生活を見直し、課題を見つける。 ○防災についての話を防災士さんから聞き、防災の取り組みをまとめる。 ○防災士の方から話を聞き、防災マップを作る時の注意点について理解する。	◇自分の経験や防災士の方の話を聞くことを通して、益城町や校区の防災の課題をつかむことができる。	・ワークシート ・発言
② 情報の収集 （１８時）	○フィールドワークに向けてグループを作り、計画を立てよう。 ○フィールドワークをして、通学路の危険なところや防災にかかわる場所を記録していこう。	◇グループでフィールドワークの計画をたて、地図に記録することができる。	・ワークシート ・マップ ・発言
③ 整理・分析 （６時）	○集めた情報をマップにまとめていこう。 ○それぞれのグループが作成したマップをつなげて一枚の大きな益城町マップを作成しよう。 ◎完成された防災マップを見て、自分の経験と重ね合わせながらマップを通して一番伝えたいことを考えよう。（本時）	◇フィールドワークで見つけた情報をマップにまとめ、特徴をつかみ、伝えたいことを考えることができる。	・マップ ・発言 ・ワークシート
④ まとめ・表現 （１５時）	○広安フェスタで校内の人たちに伝えるための準備をしよう。 ○広安フェスタで学んだことを伝えよう。 ○地域の人たちに学んだことを伝えるにはどうするとよいか考えよう。	◇伝えたいことを考え、他学年や地域の人に伝えることができる。	・発言 ・ワークシート

④　本時の学習

ア　本時の目標

完成された防災マップを見て、自分の経験と重ね合わせながらマップを通して一番伝えたいことを考え、どのようなことをどのような方法で伝えていくか見通すことができる。

イ　本時の展開

過程（分）	学習活動	主な発問や指示（○）予想される反応（・）	指導上の留意点及び人権教育の視点
１０	１　これまでの学習を振り返り、課題を掴む。 防災マップ ゲストティーチャーのお話	○フィールドワークや防災マップ作りに取り組みました。新しい発見はありましたか。 ・フィールドワークをすることで危ないところに気付いた。 ・防災マップ作りではボランティアの方から地域のことを教えてもらった。 ・サポーターの方と仲良くなることができた。 ・地域のことをたくさん知ることができた。 ○完成した防災マップを見てみましょう。 ・いろんな情報が載っているね。 ・知らないところもたくさんあったよ。 ・危ないところがたくさんあるよ。 ・避難所や安全なところもあるよ。 ・初めて見た人にもわかるかな。 ○ゲストティーチャーの話を聞いてみましょう。 ・ぼくたちのマップ作りで地域の人とも関わりができたよ。 ・もっと広めていくことができないかな。	◇活動の様子の写真をスライドショーで流し、振り返る。 ◇熊本地震の被害の様子の写真もみることで防災マップの意義を感じられるようにする。 ◇グループで模造紙に作成したマップを見ることができるようにＢ４サイズほどに縮小したものを机上におく。 ◇サポーターの方の感想を紹介していただき、マップの大きな意義を感じさせ、マップを活用したいという意欲が持てるようにする。
	自分たちの作ったマップで どんな人にどんなことを伝えていきたいか考えよう。		
２５	２　どんな人にどんなことを伝えていきたいか考える。 （１）個人で （２）全体で  板　　書	○誰に伝えたいですか。そして、このマップであなたが一番伝えたいことは何ですか。 ・家族に伝えて避難経路を考えたい。塀が倒れて危ない場所について伝えたい。地震のときに危ない思い出があるので。 ・地域の人に知らせて広めていきたい。危ない場所だけじゃなくて、役立つものについて伝えたい。自動販売機や湧き水。 ・家族と話したい。安全な道を伝えたい。もしも地震があったときどこを避難するといいかわかるように。 ・役場や町長さんに伝えて安全に直していってほしい。フェンスがなかったり穴が開いたりしているところを伝えたい。	◇ワークシートに記入させる。 ◇理由も記入させることで児童の経験や思いが入るようにする。 ◇板書で整理して児童の発言を残していく。 ◇危ない場所だけでなく、「安全」な場所についても取り上げるよう意図的指名をする。
１０	３　伝えたいことをもとに今後の活動の見通しを持つ。  板　　書	○たくさん伝えたいことがあります。どうしたら伝えることができるだろうか。 ・地域の人や学校の人には広安フェスタで紹介していきたい。 ・益城町の防災についていいところも伝えていきたいね。 ・役場の人や町長さんに実際にもっていってみるのはどうかな。 ・家族の人でも分かりやすいように「安全な場所マップ」や「危ない場所マップ」に作りかえていくのはどうかな。 ○次の時間からは伝えるための準備をしていきましょう。	**人権教育の視点** お互いの経験や意見を受け止め、共感できるよう支持的風土を作る。 **<評価：学びに向かう力、人間性等>** 自分の経験と重ねて伝えたいことを考え、今後の活動の見通しを持つことができている。（ワークシート）